

ルチ〜ダニュース 2号

meets the artistシリーズ「カメラオボスワラプロジェクト」

2004.10~2005.3 までの活動紹介

発行日:2005.02.11
発行元:ルチ〜ダニュース
問合せ先:山口情報芸術センター
〒753-0075 山口市中国町7-7
TEL:083-901-2222 FAX:083-901-2216

■ルチ〜ダフレンズからのコメント

いろんな人と出会えて楽しかったです。(K)
カメラをのぞいたら素敵な出会いがありました!(A)
アートは楽しい!仲間とアートはもっと楽しい!(お疲れさま)(T)
山口で撮影・現像する時啓さんに会えました。(U)
山口の街を光と影で遊び過ぎました。(S)
カメラ越しの世の中はいつもより素敵にみえました。(H)
時間をとめるカメラがまちの時間を考えさせるなんて不思議!(S)
まちにはね返る、「光」を見るようになりました。(H)
「光の素敵」たくさんの人に乱反射すればいいな…。(K)
路地の散策を通して、山口の良さを見直しました。(H)

■お礼のメッセージ

ワークショップにご参加いただいた皆さん、撮影にご協力をいただいたまちの皆さん、
そのほかご尽力をいただいた多数の皆さん、いろいろとありがとうございました。

山口の路地を
歩いてみよう!!



ルチ〜ダフレンズとは?

山口情報芸術センター/山口情報芸術センター市民委員会によって企画された市民参加型活動です。公募によって集まった約20名のグループ「ルチ〜ダフレンズ」がアーティスト佐藤時啓さんと共に『山口の光景』をテーマに、ボランティアで活動しています。05年3月まで、ワークショップやアート作品の制作、活動の記録や展覧会の開催等を行っています。

meets the artistとは?

山口情報芸術センターによる、長期参加型のアートマネジメント活動の名称です。毎年1アーティストと市民が約1年にわたって山口でのアート活動を実践していくことを目的とします。

主催 文化芸術による創造のまち山口実行委員会、文化庁、山口県、山口市、財団法人山口市文化振興財団
助成 エネルギア文化・スポーツ財団
後援 山口市教育委員会
企画 山口情報芸術センター、山口情報芸術センター市民委員会



■ピンホールカメラ / 現像研修

私たちは昨年秋「アートふる山口」に出展し、カメラの内側からカメラオブスキュラの原理を体験しました。次に取り組んだのは現像研修です。ピンホールカメラとは、“針穴”カメラのことです。本当に“針穴”でも写真が撮影できるのでしょうか？そこで実際にピンホールカメラをつくり、撮影・現像してみようということになりました。

カメラの材料は、お菓子などの空き缶。穴は、べつに薄いアルミ缶を四角に切り取り縫い針で穴を開けました。

暗室の使い方、現像に必要な薬品や現像方法も自分たちで調べました。いよいよ撮影！みんな散らばって好きな場所や物の前に座り込み、空き缶カメラを置いて数秒間露光します。撮影する様子は、客観的に見ても怪しい行動にしか見えません…。暗室に戻り、缶の中から印画紙をとって“ドキドキ”しながら現像液に浸します。

途端に「わあー！」と歓声があがります。

針穴から入ってきた光は、見慣れた写真とは違って、不思議な像を映し出していました。浸し方がうまくいかない事もあったけれど、手塩にかけた分それがまた味のある個性的な作品になりました。

この現像体験をすることで、佐藤時啓さんにほんのわずかだけれど近づいた様な気がしました。(S)

■まち歩き、そこで起こった出来事

「カメラは、嫌いです。」佐藤さんにそうって自己紹介したのが始まりです。そんな私がカメラを持ってまち歩きをしました。

初めて路地を歩いたのは、佐藤さんが山口に着いた日のこと。「山口のにおいがする。」とてもうれしそうに片目を閉じて、何度もシャッターを押している佐藤さんに驚くばかり。そこは、いつものふつうにある茶色の町並みでした。

まち歩きを繰り返しました。山口にはたくさんの路地があります。その空間はなんとも心地よい。路地には名前があって、昔から変わらない町名もありました。昔ながらの建物や素敵な色の看板、路地沿いにあるごみ箱、突然遭遇する猫…。歩いてみると気がつかなかったものが見えてきます。カメラのシャッターを素人ながらに何度も押しました。

家に帰って画像をみると、窓ガラスや水たまりに写りこんだピカピカした空や自分の姿に気がきました。カメラは不思議です。自分では意識していない光景も、そのままに四角くフレームしてちゃんと写し出します。「カメラの穴から何が見えてくるだろう。」今は、いつでもカバンにカメラが入っています。(H)



■佐藤時啓さんからのメッセージ

西都と呼ばれる山口。
今、YCAMの活動とともに過去と未来がリンクする。
映像の全ての原理である針穴によって山口の光を記録すると、そこには思いもかけない風景があぶり出される。
自らの町を誇りこれから生きて行くためには、歴史を守る事と新たな事を呼び起こす力が必要である。
山口は歴史的にそういった風土なのだ。



- 2004. 春 市民の企画としてスタート
- 06. 20 佐藤時啓アーティストレクチャー開催
- 07. 02 「ルチーダフレンズ」結成
- 07. 20-10. 26 佐藤時啓「オブスキュラマキナ」完成・展示
- 07. 21-07. 25 「かぶるカメラをつくろう」ワークショップ
- 10. 02 アートふる山口出展
「でっかいカメラに入ってみよう!!」
- 10. 03 ワンダリングカメラ撮影 in秋吉台・千畳敷
- 10. 09 反省会
広報紙第1弾を作成しよう!
- 11. 03 広報紙『ルチーダニュース』完成
- 11. 07 ピンホールカメラ制作
カメラとピンホールカメラの仕組みについて研修
- 11. 14 現像研修 第1回
缶カメラをつかって撮影・現像
- 11. 22-2005. 01 まち歩き
展覧会にむけて山口のまち歩きをくりかえす
・すてきな路地を見つける
・試作品を制作(路地をミニチュア立体化)
- 12. 04 ピンホールカメラで路地を撮影
- 12. 05 現像研修 第2回
ネガポジ反転してみる
- 2005. 01 展覧会に向けて準備開始!
- 01. 26-02. 11 佐藤さん滞在制作
ルチーダフレンズといっしょにピンホールカメラ制作
・360°の景色をうつしだす「山口カメラ」制作
・多孔式カメラ「平(タイラ)」制作
・撮影/現像/展示会場設置
- 02. 11-03. 13 展覧会「"pin-holes" project in yamaguchi
針穴図像 -光の間-」
佐藤さんとともに展覧会開催/ドキュメンテーションの発表



■佐藤時啓さん(アーティスト)の紹介



1957年山形県生まれ。東京芸術大学大学院美術研究科修了。
写真やカメラをとおして、人々のコミュニケーションや視線の交錯をテーマとし、展覧会やプロジェクト活動、ワークショップなど幅広い活動を行なっている。「ハバナ・ビエンナーレ」(1997)ほか多数。
2003年には、第20回現代日本彫刻展にて宇部興産株式会社賞を受賞している。
現在、東京芸術大学先端芸術表現科助教授。